



4時ごろまでと授業時間 していたのです。
が定められていました。「みんなそろって勉強
近代の小学校では、児 する」近代の学校は、時
童は決められた時間通り 間に合わせた規律正しい
に席について一斉に授業 集団行動というものを学
を受けるようになりまし ぶ場でもあったといえま
た。このスタイルは現代 す。

は府が西洋時間による時 業生からの寄贈により、
報を各小学校へ布達、校 京都で初めての自動電気
内の望火楼などに置かれ 時報が採用されました。
た太鼓を鳴らして正午な 屋上に設置された自動の
ベルが学区内に響き渡
り、児童の起床時間や登
校の時間も知らせていた
ほかに明治時代には、
振鈴・西洋式ベル(写真
②)や木板も使われてい
ました。授業の始まりと
終わりに、今で言う管
理用務員がベルをなら
し、授業の区切りなどは
木の板を木づちでたた
て合図することが多か
ったようです。現在のチ
ヤイムですね。
その後、振鈴は電鈴に
替わっていきます。19
23(大正12)年には、
下京区の開智小(現在は
学校歴史博物館)に、卒

京都に小学校が初めて
できた1869(明治2)
年に、府から布達された
小学校規則では、「毎日
暁六ツ時ヨリ夕七ツ時迄
諸学修行之事」とあり、
現在の午前6時から午後
いた時間に来て手習いを
1871(明治4)年に

集団行動規則正しく



写真②、振つて鳴らした「振鈴」(右 除小中蔵)



写真①、たたいて時間を知らせた「報時鼓」(元日彰小蔵)

「報時鼓」は学校歴史博物館(下京区)で常設展示しています。

◇ 京都市学校歴史博物館 学芸員 森光彦